

さぎそう学舎
世田谷区立九品仏小学校
学校運営委員会委員長 様
学校長 様

学校関係者評価委員会

令和6年度 世田谷区立九品仏小学校 関係者評価委員会 報告書

世田谷区立九品仏小学校学校関係者評価委員会では、地域運営学校として、学校・家庭・地域との連携・協働を目指す本校において、さらにより良い教育活動が展開されるよう、外部アンケート（共通項目・独自項目）などの評価資料をもとに、令和6年度の教育活動全般について、考察・検討をすすめ、以下のようにとりまとめました。学校および学校運営委員会において、これらの結果を参考とし、今後の対策の検討資料として役立てていただきたく、ご報告申し上げます。なお、記述の根拠となる評価資料は別紙にとりまとめました。

総評

全般において、昨年に引き続き、本校が児童と保護者と地域の方々に高い信頼を受けて運営されていることを強く感じる結果でした。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されて1年が経過し、学校生活はコロナ禍前の風景にほぼ戻りつつありました。そのような中、校長先生をはじめ教職員の皆様が、学校行事や日常教育活動を工夫され、また、保護者・地域の皆様とも協働して、教育活動の主体である児童にとって楽しく感じられる内容を検討し、進められた結果であると考えます。

学校の重点目標について

(1) 表現力やコミュニケーション能力の向上を目指す・・・「よく考える子」

本校では、世田谷区探求的な学びのもと、「探求のプロセス」と、他者や社会とつながり学びを広げ深める「共感・協働」をキーワードとし、一人ひとりの多様な個性・能力を伸ばす学校教育を展開されている。町探検・栽培活動・福祉体験・読み聞かせなど、保護者や地域の方による様々な体験活動が行われている。児童項目「私は、保護者や地域の方との活動を楽しみにしている」の項目は32ポイント上昇し、91%であった。多様な人々とつながり、自分のことを理解してくれる応援してくれていると実感できる地域社会の中で、児童は様々なことにチャレンジし、失敗したり成し遂げたりする経験を繰り返しながら、自らの生きる力を育むことができると思われる。

(2) あいさつを通して人とかかわる楽しさを感じる心を育てる・・・「思いやりのある子」

学校の独自項目「私は、～にあいさつをしている」については、先生方の肯定的意見が100%を保持しているのに対し、児童、保護者、地域とも数値的には昨年度より下がる傾向が見られた。本校では、年間を通じて「朝のあいさつ運動」を行い、低学年の頃から語先後礼や相手を敬う気持ちを大切に育てられている。また、学校、家庭、地域と連携してあいさつ運動を推進されている。児童と共に、大人も気持ちの良い挨拶を心がけていくことで、今後も、挨拶が響き合い、心が通い合う九品仏小学校であることを願う。

(3) 校内研究を中心として体育科の指導を充実させる・・・「たくましい子」

児童項目「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」の肯定的意見が93.8%と高い数値であった。今年度本校は、体育科の校内研究「自己の課題を見つけ、課題解決に向けてやり遂げる子どもの育成」に取り組まれている。“自分なりの意見を持ち、友だちと協力しながら課題解決に向け、前向きに取り組んでいける児童の育成を目指した授業”を実践されていることが、肯定的意見を高めている要因の一つであると考えます。

(4) 実技教科を充実し、「できた」「わかった」を実感させる・・・「進んで取り組む子」

児童項目「学校行事は楽しい」の肯定的意見が91.2%、保護者項目「学校行事は子どもにとって楽しい。達成感がある。」の肯定的意見が95%と高い数値であった。本校は、実技教科の充実を通して、児童に「できた」喜びや粘り強く取り組む姿勢を育まれている。体育科では基礎的な体力づくりを柱に、自己の考えを基に目標に向かって努力する姿勢を育む授業を展開され、音楽科や図画工作科では表現活動を通じて、自分の思いや感性を豊かに表現する機会を増やし、児童が互いに刺激し合いながら学びを深める環境を整えられている。運動会や学芸会では、先生方のご指導のもと、生き生きと表現活動を楽しんでいる児童の姿が見られ、沢山の拍手がおくられていた。

評価委員会で意見が出された項目

- ・キャリア教育については、他の項目と比べると数値が低い傾向がみられるが、児童項目「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」の肯定的意見が上昇した。「キャリア・未来デザイン教育」の授業で、世界で活躍している本校卒業生や野球日本侍ジャパンの監督など様々な職業の方を招いて話を聞く機会があったことで、一定の成果が現れていると思われる。
- ・世田谷区では、児童が自己の良さに気付き成長を実感しながら将来への期待をもてるよう、「キャリアパスポート」を活用している。児童が自分の良さに気付けるよう、一人ひとりの良さや頑張りを褒め認めていくなど、大人が対話的に関わっていくことが大切と思われる。
- ・児童項目「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」の肯定的意見が、今年度も上昇し80%近くあった。また、保護者項目「私は、保護者と学校と地域の協力は大切だと思う」の肯定的意見も上昇し95%と高い数値であった。地域項目の肯定的意見は100%であった。学び舎の中学校との交流活動や地域の行事がコロナ禍以前のように復活している成果とみられる。1月末に行われた青少年九品仏地区委員会主催「九品仏地区新春こどもまつり」では、例年八幡中学校生徒が活躍しているが、今年度は本校児童の合唱団による発表もあり、好評であった。今後も、世田谷区の教育施策である「地域とともに子どもを育てる」のもと、「さぎそう学舎」3校4園による学校と地域の連携・協働を継続して推進されていくことを望む。
- ・保護者項目「本校は、学校公開や保護者会で児童の様子が分かる」の肯定的意見が上昇し91%であった。また、「本校は保護者に学校の重点目標を伝えている」の項目も肯定的意見が上昇し83%であった。地域項目の「学校の重点項目が明確である」は94%と高評価であった。学校が、教育活動について十分説明するよう努められ、重点目標についても内容を分かりやすく具体的に伝える努力をされた結果と思われる。
- ・児童項目「私は、学校のきまりを守って行動している」と「先生に注意されたことは理解出来る」の肯定的意見が90%以上と高い一方で、「先生たちに相談できる」は肯定的意見が低い傾向にある。「私は、悩んだり困ったりしたときに、相談できる人がいる」は、肯定的意見が91.2%あり、相談事は家族や友達に広がっているように思われる。自分から発信することが苦手な児童へは、先生方からも声をかけていただけると良いのではと思われる。
- ・学校から、本年度スクールカウンセラーが新しく2名着任し、継続的なカウンセリングに繋がっている。また、日頃の授業を観察している。スクールカウンセラーに話を聞いてもらったことから、子どもから教職員にも話しに行けるようになった事例を伺い、子育てで悩みを抱えている方々に対して相談しやすい環境を整えていきたいという話を伺った。
- ・関係者評価委員会にご参加いただいた先生方からいろいろお話を伺う中で、保護者から『すぐーる』で欠席連絡が届くと本校の全教職員が情報を把握していることを知った。先生方からは、「気になることがあれば、コメント欄を活用して些細なことでも伝えて頂けると、予防も含めて対策ができる。」という心強いお話を伺い、一人一人の児童を全教員で見守っていただいていることが分かった。今年度も、先生方から直接お話を伺う機会を設けていただけたことは大変有意義であった。

終わりに

本委員会の基本的な考え方は、「子どもたちにとってよりよい九品仏小学校の創造」です。未来を担う子どもたち一人ひとりの多様な個性が生かされる教育の推進にむけて、教育の有るべき姿を模索し、来年度も、九品仏小学校がより魅力ある学校として発展されることを期待しています。